

# 令和8年度 学校経営方針

狭山市立山王中学校

〈はじめに〉

本校創立以来49年間にわたって継承されてきた学校理念・教育実践を尊重しつつ、憲法、教育基本法、各教育法規、及び国・県・市の重点施策を踏まえ、生徒の実態や地域社会の実情等の上に立ち、全教育活動を通して「生きる力」（確かな学）（豊かな心）（健やかな体）を育み、「未来をみつめ自ら行動する生徒」を育てる教育活動を進めていきたい。

そのためには、生徒や保護者・地域とともに【誰もが安心して通え、互いに磨きあい、ともに成長を実感できる学校】に全職員が英知と情熱を結集し、生徒一人一人を見つめ、創意ある教育実践に努め、地域から信頼される教育実践を積み上げていきたい。

## 1 生徒・学級・教職員数

(1) 生徒数（令和8年4月1日）

	通常学級			特別支援学級			通常+特支		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計
第1学年	52	43	95	3	2	5	55	45	100
第2学年	64	35	99	3	1	4	67	36	103
第3学年	44	63	107	1	0	1	45	63	108
計	160	141	301	7	3	10	167	144	311

(2) 学級数

通常学級		特別支援学級			
学 年	学級数	学 級	学級数	生徒数	内 訳
第1学年	3				
第2学年	3	知的	1	6	1年4名 2年2名 3年0名
第3学年	3	自閉・情緒	1	4	1年1名 2年2名 3年1名
計	9	計	2	10	1年5名 2年4名 3年1名

(3) 教職員数

県費負担教職員 27名（産育休3名含む）

市費負担教職員 20名

計47名

## 2 学校教育目標

**未来を見つめ自ら行動する生徒**

## 3 【めざす生徒像】

**社会で愛され、通用し、たくましく生きていく力を身に付けた生徒**

### 3-2 めざす生徒像達成への視点

(1) 確かな学力

- ・自分のやるべきことを当たり前でできる力を育てる
- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決

する資質や能力を育てる。

- ・学び方や自己教育力を育てる。

#### 【具体的生徒像】

- ① 凡事徹底 自分のやるべきことを当たり前に行うことができる生徒
- ② 元気にあいさつや返事、「ありがとう」の言葉が言える生徒
- ③ 生活のあらゆる場面で適切に判断ができる生徒
- ④ 自分の計画で家庭学習に取り組むなど、進んで学習できる生徒。

#### (2) 豊かな心

- ・相手の立場を尊重し、相手を思いやる態度と行動力を育てる。
- ・友達を大切にし、協力して活動できる態度と行動力を育てる。
- ・自分は、多くの人に助けられ、支えられているという自覚と「ありがとう」という感謝の気持ちを育てる。

#### 【具体的生徒像】

- ① 自分がされて嫌なことを他人にはしない生徒
- ② 学校のきまりや約束を守る生徒
- ③ 友達を大切にし、助け合いながら活動できる生徒  
みんなと協力し、進んで働こうとする生徒

#### (3) 健やかな体

- ・目標を達成するためには、強い意志と行動力をもち、最後までやり抜く意欲を育てる。
- ・自分の命は自分で守るといふ、自覚と実践力を育てる。
- ・自ら健康の保持増進を図り、進んで運動に取り組む態度を育てる。
- ・食に関する指導を充実し、望ましい食生活を実現しようとする態度を育てる。

#### 【具体的生徒像】

- ① 規則正しい生活をする生徒
- ② 進んで運動に取り組み、たくましい心や体づくりに取り組む生徒
- ③ 健康や安全に気をつけ、自分がなすべきことは実行できる生徒
- ④ 好き嫌いなく、バランスのよい食事をする生徒

## 4 【めざす学校像】（本年度のミッション）

『チーム山王中 誰もが安心して通え、互いに磨きあい、

ともに成長を実感できる学校』

### 「自他共栄」の精神

自分だけの成長や利益を求めるとはならず、相手を思いやり、互いに助け合いながら、ともに成長し、ともによりよく生きていこうとする精神

- (1) 生徒が、この学校に学び、生活することに楽しさと充実感を味わい、確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれる学校
- (2) 保護者が、この学校に通わせることに満足感と安心感をもち、学校とともに子供を育てようとする学校
- (3) 地域社会が、この学校をコミュニティの核として、学校の教育活動への参観・参画などを通じて、地域コミュニティの活性化を図れる学校（学校応援団・SSVC等と

の連携)

- (4) 教職員が、この学校で働くことに喜びと誇りをもち、子供の教育という崇高な使命を果たす役割を担っていることに生きがいを感じ、協働して取り組める学校

## 5 【めざす教師像】

### 「ワンチームで生徒の夢の実現を支える教師」

- (1) 人格的資質をもち、同僚性のある教師  
(2) 子供理解、集団組織力の力を伸ばそうとする教師  
(3) 学習指導、授業づくりの力を伸ばそうとする教師

## 6 学校経営方針

- (1) 知・徳・体の調和と統一のある教育課程を編成・推進するとともに教育環境を整える。  
(2) 人権尊重の精神を基盤とし、生徒一人一人のよさを認め、喜んで登校することができる生き生きとした学校づくりに努める。  
(3) 全教職員の協力体制を確立し、研修に努め指導力の向上を図るとともに創意に満ちた教育を推進する。  
(4) 教師と生徒、生徒と生徒の好ましい人間関係を築くとともに、家庭・地域の連携を深め、信頼関係の上に立って、地域とともに教育を推進する。

### 6-2 経営方針実現のための今年度の取り組み

#### (1) 確かな学力の定着

- ・「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、授業改善、工夫し、一人一人の学力の向上を図る。
- ・授業改善⇒教科部会の有効活用、教師相互の授業参観、各種研修会の参加
- ・授業規律の確立徹底⇒授業を大切にす。主体的な取り組み姿勢の育成。  
聞くととき、話すとき、考えるときのけじめ。
- ・少人数やTT等の指導形態の工夫により、個に応じた学習指導の充実を図る。
- ・家庭での学習習慣の定着を図る。家庭学習ノートの取り組み、家庭の協力要請。
- ・SSVCの有効活用 ⇒ 活用の仕方については十分検討し、再考する。できる限り活用できる方策を教科部会で考える。通年ではなく、単元ごとの依頼も可。  
(家庭科、木工、書初めなど)

#### (2) 豊かな心の育成

- ・生徒に規範意識を醸成させ、いじめや差別などに立ち向かうたくましい心の育成を推進する。
- ・多様な仲間を理解し、認め合う共生の意識を育てるとともに、相互により良く変容しようとする態度を育成する。
- ・清掃活動を通して勤労の尊さや働く意義を学ばせる。
- ・道徳授業の確保と充実⇒ 時間割の工夫(学年同時に実施)、自己評価カード

- 指導項目を適正に指導する。自作資料の扱いは学年で十分検討して扱う。  
(偏りや独りよがりを防ぐ。) 学年で協力して指導の流れや略案提供しあう。
- 朝会の有効活用⇒ 校長が行う道徳と捉え、講話を行う。  
「教師、生徒がともに考えることができる時間」
  - 教師の言葉かけ⇒丁寧な言葉かけ、気遣いは生徒に伝わる。  
「心を変えて、行動を変える」ことのできるよう、丁寧に関わる。
  - 一人一人の生徒に積極的にかかわる 各学年3学級の小規模校の強みを発揮する
- \* 小規模校であるが故、学年の枠を超え、全教師が全校生徒に関わることに努める意識を持ち続ける。小さい学校のメリットに目を向ける。

### (3) 保護者・地域との連携

- 不登校・いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努める。
- 先取りの指導と連携  
⇒子どもの様子「何か変だ」と感じるときは「何かあるとき」生徒に声掛け、よく話を聴く。保護者とよく話し、保護者の思いをくみ取る。早期発見、早期対応、機を逸さない迅速、丁寧、適切な指導
- 生徒、職員ともに積極的に地域活動に参加し、地域の方々と共に学校を作る意識と自覚を高める。地域ボランティアの積極的な参加、様々な地域への協力で「山王中」を広める。(out put)
- 地域人材の活用、開拓。専門性のある立場の方々との連携により、学力向上、体験学習、環境整備等、円滑な学校運営に協力いただける人材を見つける。(in put)
- 「負担」と「負担感」の違いを認識し、教師もともに楽しめるボランティアを追求する。

### (4) 安心・安全な環境の確立

- 生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努める。いじめゼロ
- 危機管理を徹底し、生徒の生命、身体の安全が守れる体制をつくる。
- 教職員事故ゼロ。生徒、保護者に安心して任せてもらえる学校にする。
- 全教職員が安全に、心身ともに健康で、安心して過ごせる学校づくり。

### (5) 教職員の研修活動の充実 『初心忘れるべからず』

生徒の教育に当たる教育公務員として、誇りと自信をもって指導にあたりたい。  
そのためには、常に資質・能力の向上に努めることが必要である。

- 生徒の実態に即して、課題解決のための研修の推進と生徒の学習に反映・還元される研修の充実を図る。
- 研修の原点は個人研修であり、一人一人が課題を決め、研究・修養に努め、自己評価、改善を加え、教育のプロとしての指導力の向上を図る。
- 日常的な教材研究の充実及び実践記録の積み上げを継続的に行う。
- 評価方法の工夫・改善を図る。
- 施設設備、教材教具の効果的活用を図る。
- 特別支援教育に関する研修を深め、指導を要する生徒への対応方法を身に付けていく。(通常級に在籍する支援が必要な生徒)
- 学校全体で若手教職員を育てるOJTの充実。